

米の基本指針（案）に関する主なデータ等

令和 6 年 3 月
農林水産省農産局

目 次

○ 主食用米等の令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し	2
○ 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量	3
○ 令和5年夏の高温・渇水の状態と対応について	4
○ 令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年12月31日時点）	5
○ ふるい下米の発生量（推計）	6
○ MA米及び政府備蓄米の加工原材料用途への販売について	7
○ 令和6年産に向けた水田における作付意向について（令和6年産第1回中間取組状況）	8
○ 米の販売数量及び民間在庫の推移（令和6年1月）	11
○ 産地別民間在庫の状況（令和6年1月）	12
○ 相対取引価格の推移（平成25年産～令和5年産）	13
○ 令和5年産米の相対取引価格（令和6年1月の年産平均価格）	14
○ 令和4・5年度の保管料等支援のイメージ	15
○ 政府備蓄米の運営について	16
○ 令和6年産備蓄米の政府買入入札の結果（令和6年2月14日現在）	17
○ 米粉の需要拡大について	18
○ 米粉を使用した商品について	19
○ コメ・コメ加工品の輸出実績	20
○ コメ・パックご飯等・米菓の輸出実績の推移	21
○ MA米の輸入状況	22
○ 令和5年度のSBS米の輸入入札状況	23
○ TPP11におけるコメの豪州枠の運用	24
○ 「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づく具体的な施策の内容（抜粋）	25

主食用米等の令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し（令和 5 年10月公表基本指針）

【令和 5 / 6 年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和5年6月末民間在庫量	A	197	-----> 194 <<3>>
令和5年産主食用米等生産量	B	662	← 見通し: 669万トン
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	859	
令和5/6年主食用米等需要量	D	682	
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	177	

(単位: 万トン)

令和 2 年産米のコロナ影響緩和特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し

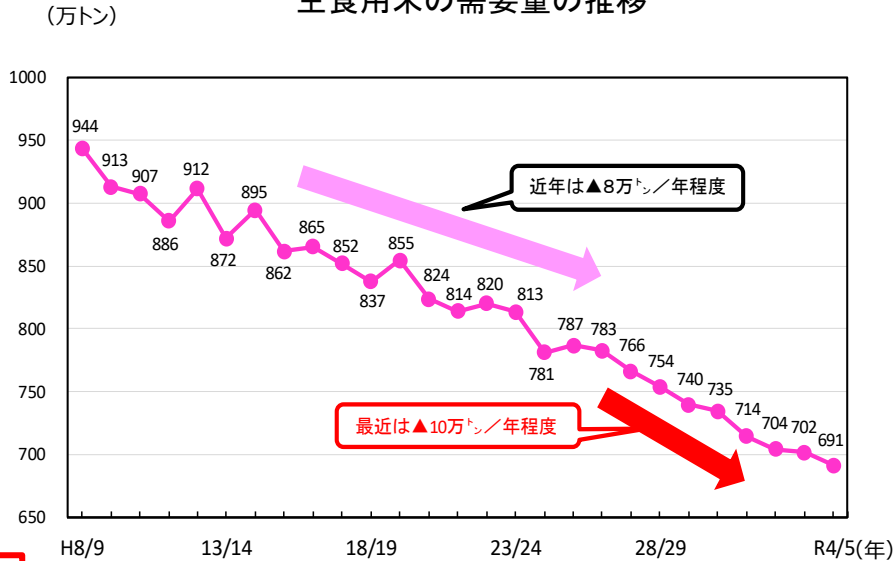
R5年産の生産量
の見通しと同水準
の生産量

【令和 6 / 7 年の主食用米等の需給見通し】

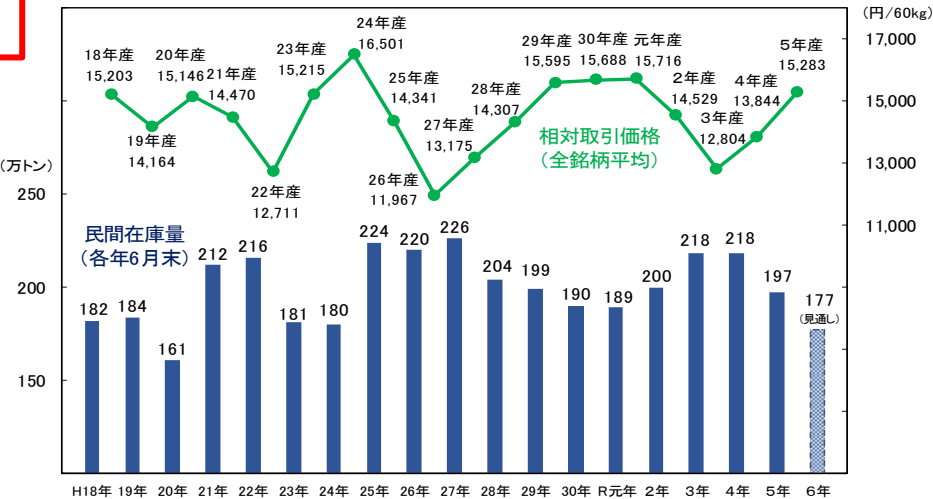
(単位: 万トン)

令和6年6月末民間在庫量	E	177
令和6年産主食用米等生産量	F	669
令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	847
令和6/7年主食用米等需要量	H	671
令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	176

主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移



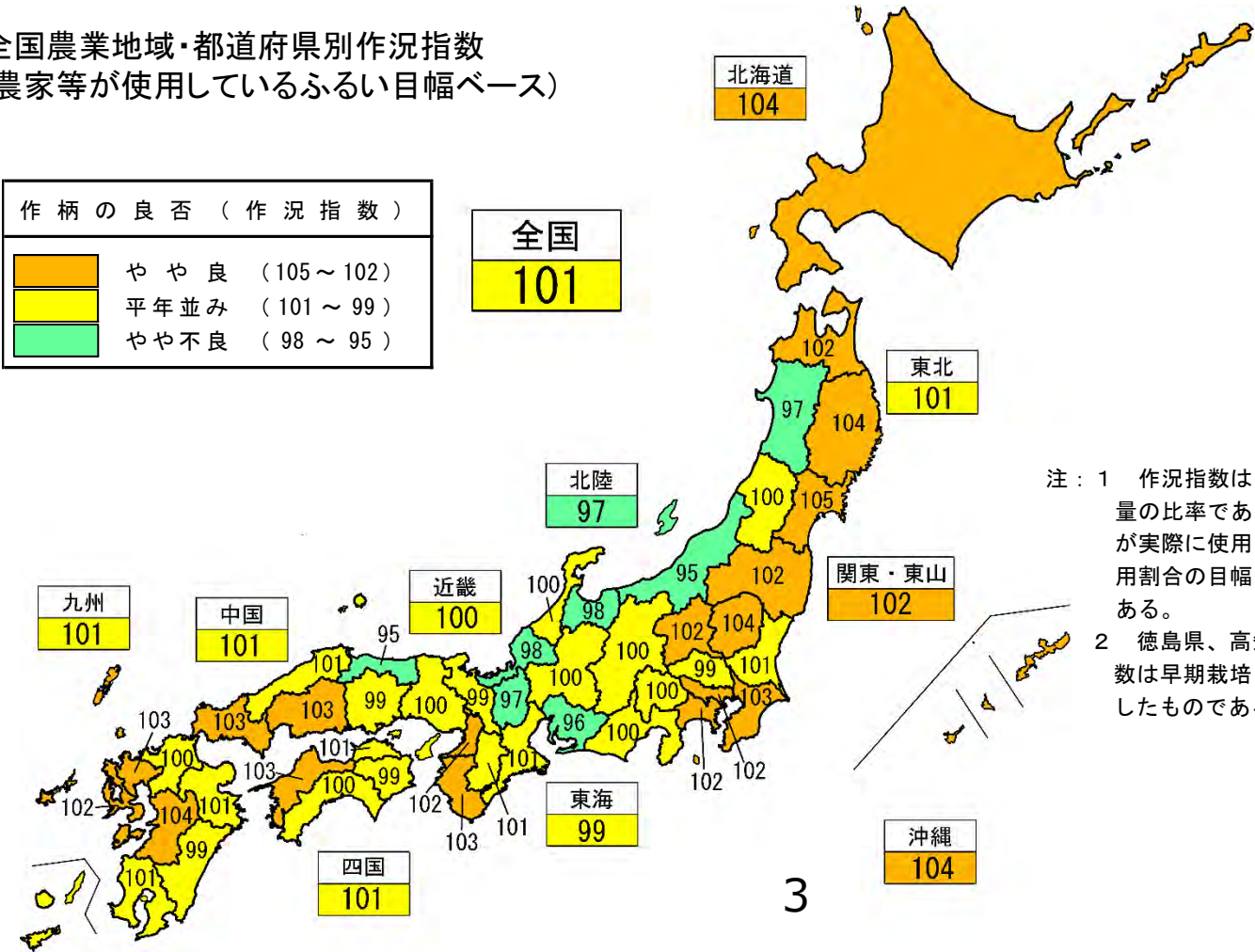
注 1：欄外の記載は、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む令和 2 年産米を除いた場合の見通しであり、<< >> 書きは特別枠に係る取組数量。
注 2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 全国の10a当たり収量（1.70mmのふり目幅ベース）は533kg。
- 主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた主食用の収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）となった。
- 農家等が使用しているふり目幅ベースの全国の作況指数は101。

全国農業地域・都道府県別作況指数
(農家等が使用しているふり目幅ベース)

作柄の良否（作況指数）	
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふり目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

令和5年夏の高温・渇水の影響と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、番水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。

※番水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【高温・渇水による農作物への影響】

・米：白未熟粒の発生



・トマト：裂果の発生



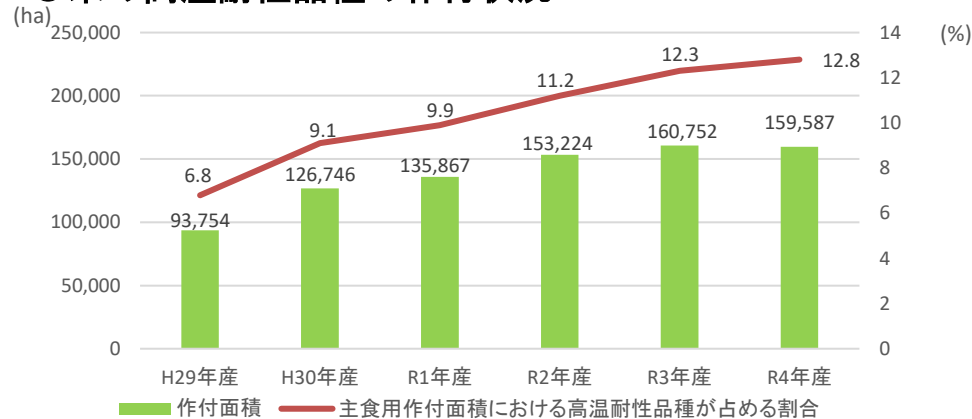
・リンゴ：日焼け果の発生



【高温・渇水への対策】

- ・高温耐性品種の導入
- ・土づくり、追肥、水管理、適期収穫等の高温対策技術の実施
- ・番水、消雪用井戸の活用、排水の反復利用等の渇水対策技術の実施

○米の高温耐性品種の作付状況



品種名	作付面積 (令和4年 産)	作付けの多い 上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和4年 産)	作付けの多い 上位3都道府県
きぬむすめ	22,656ha	鳥根、岡山、鳥取	さがびより	6,060ha	佐賀
こしいぶき	19,600ha	新潟	ゆきん子舞	5,200ha	新潟
つや姫	17,303ha	山形、宮城、鳥根	ふさおとめ	4,800ha	千葉
ふさこがね	11,900ha	千葉	なつほのか	4,058ha	長崎、大分、鹿児島
あきさかり	7,658ha	広島、徳島、福井	新之助	4,000ha	新潟
にこまる	7,495ha	長崎、愛媛、岡山	雪若丸	4,000ha	山形
とちぎの星	7,200ha	栃木	てんたかく	3,802ha	富山
彩のきずな	6,500ha	埼玉	その他	21,185ha	
元気つくし	6,170ha	福岡	計	159,587ha	

出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」

※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。

※2 作付面積には推計値も含まれる。

令和5年産水稻うるち玄米農産物検査結果（令和5年12月31日時点）

- 令和5年産米の検査数量は、12月末現在382万トン（前年同期388万トン）。前年の検査数量452万トンと比較して84.5%の進捗率。
- 高温・渇水の影響による白未熟粒の発生等により1等比率は全国で61.3%（前年同期78.6%より17.3%低下）。
- 一方で、高温耐性品種の検査等級は、1及び2等の比率はおおむね9割以上。

【全国の検査結果に占める1等比率】

(%)

	5年産	4年産	3年産	2年産	元年産
8月末現在	68.9	68.0	76.1	74.3	67.8
9月末現在	59.6	75.8	82.6	80.7	67.6
10月末現在	61.3	79.4	83.6	80.8	72.9
11月末現在	61.2	78.7	83.1	80.3	73.1
12月末現在	61.3	78.6	83.1	80.1	73.1
最終	-	78.6	83.1	79.8	73.2

※元年産～4年産の最終は確定値

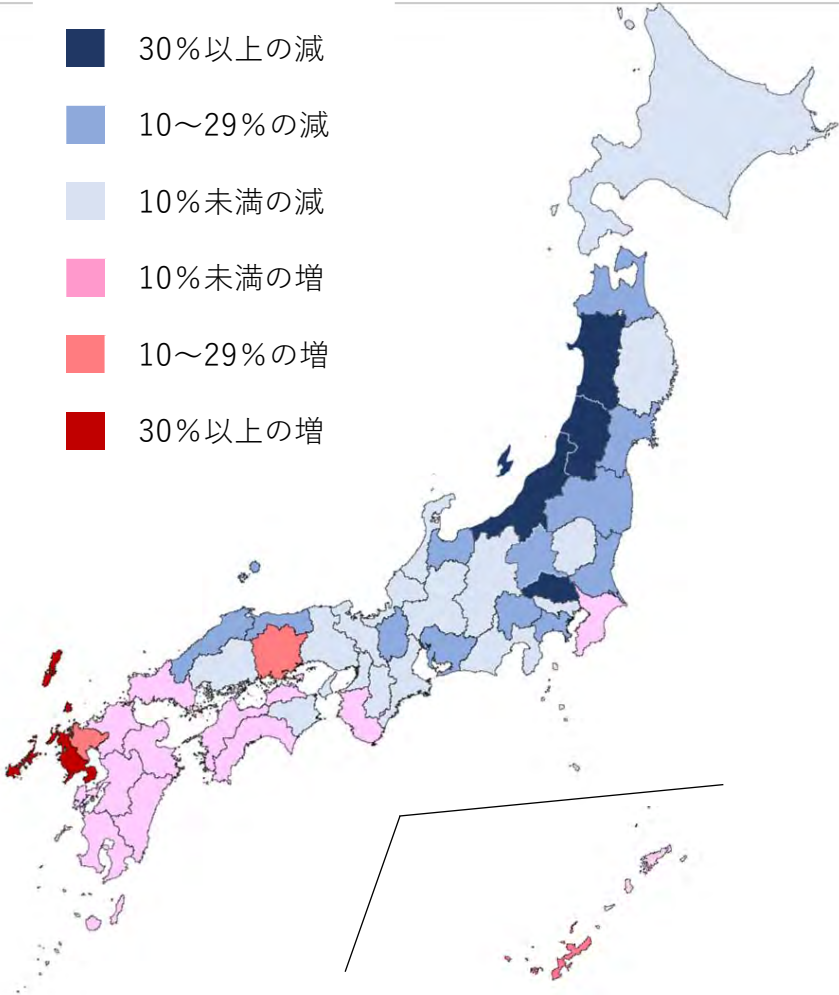
【N県における品種別検査結果】

品種名	高温耐性	検査数量 (トン)	等級別比率 (%)			
			1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	なし	254,649	5.0	42.0	49.5	3.5
			47.0			
こしいぶき	あり	76,460	14.0	75.8	9.8	0.4
			89.8			
ゆきん子舞	あり	22,085	61.6	33.7	3.9	0.8
			95.3			
新之助	あり	23,587	94.7	4.5	0.2	0.5
			99.2			
にじのきらめき	あり	5,309	17.8	72.3	9.3	0.7
			90.1			

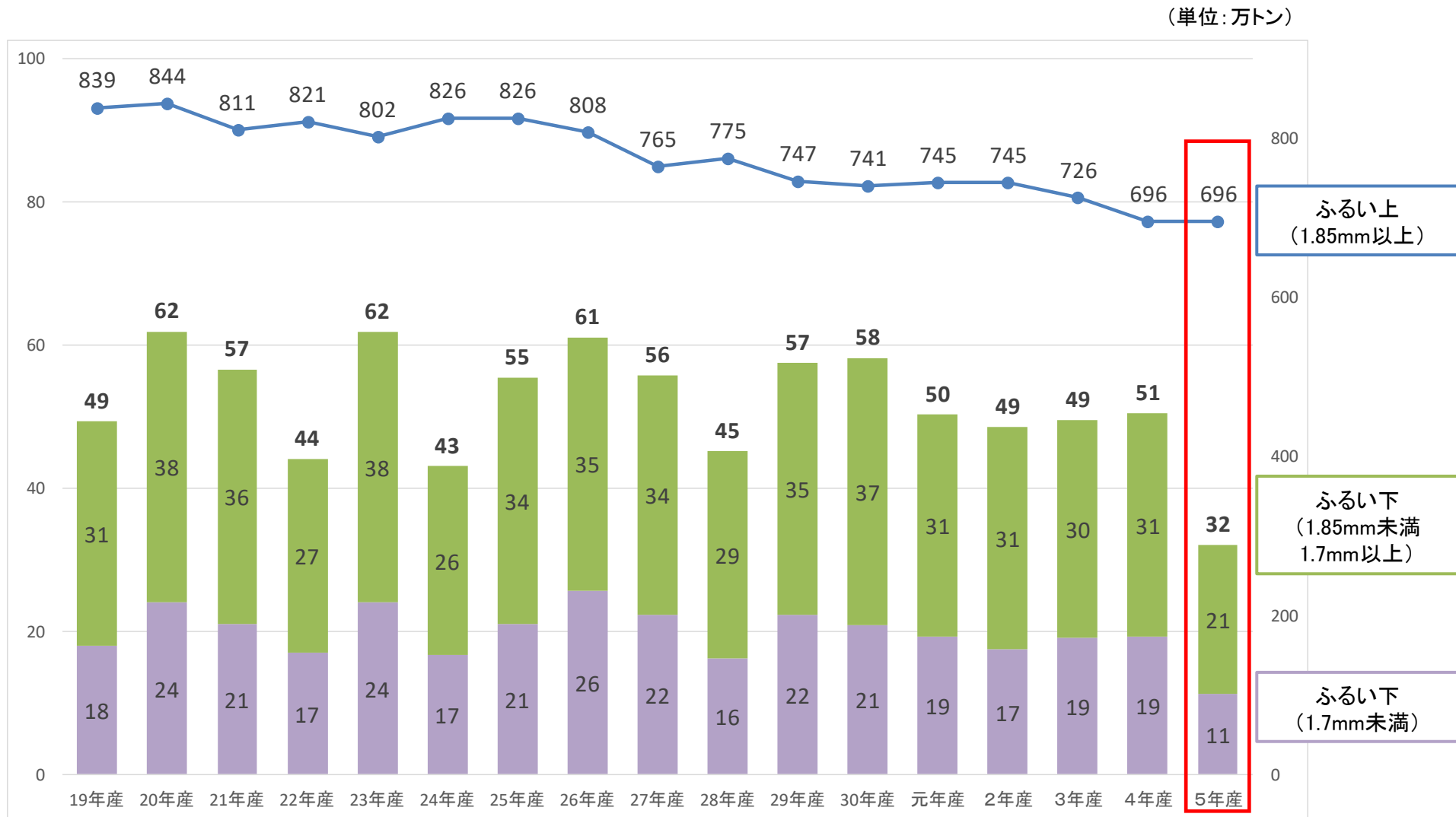
※四捨五入の関係で合計値が一致しないことがある

【1等比率の前年同期比較】

- 30%以上の減
- 10～29%の減
- 10%未満の減
- 10%未満の増
- 10～29%の増
- 30%以上の増



ふるい下米の発生量（推計）



注１：1.85mm以上ふるい上及び1.85mm未満1.7mm以上ふるい下米の発生量は、統計部により公表されているふるい目幅別収穫量（子実用）により推計。

注２：1.7mm未満ふるい下米の発生量は、統計部により公表されている10a当たり粗玄米重と10a当たり玄米重の差に子実用作付面積を乗じて推計。

M A 米及び政府備蓄米の加工原材料用途への販売について

- 令和5年11月以降のM A 米の販売数量は、国産加工原材料用米穀（ふるい下米等）の供給量の減少を受け、前年同期比+50%程度と大きく増加。
- 平成24年産におけるふるい下米発生量の減少に伴う国産加工原材料用米穀の不足分に対して、平成25年4月に約2.7万トンの政府備蓄米を販売。

■MA米の加工原材料用途への販売数量の動向 (前年同期比)(速報)

(単位:トン、%)

		11月	12月	1月	計
SBS米 (破碎精米粹)	4年度	–	1,700	2,400	4,100
	5年度	200	708	848	1,756
	(前年同期比)	–	(42%)	(35%)	(43%)
	6年度	2,340	2,500	1,480	6,320
	(前年同期比)	(1,170%)	(353%)	(175%)	(360%)
一般輸入米	4年度	7,929	8,565	5,532	22,027
	5年度	5,720	6,796	5,404	17,920
	(前年同期比)	(72%)	(79%)	(98%)	(81%)
	6年度	7,237	8,212	8,535	23,984
	(前年同期比)	(127%)	(121%)	(158%)	(134%)
販売数量計	4年度	7,929	10,265	7,932	26,127
	5年度	5,920	7,504	6,252	19,676
	(前年同期比)	(75%)	(73%)	(79%)	(75%)
	6年度	9,577	10,712	10,015	30,304
	(前年同期比)	(162%)	(143%)	(160%)	(154%)

注1：年度は米穀年度（前年11月から当年10月まで）。

2：令和6米穀年度の令和5年12月及び令和6年1月は速報値。

■政府備蓄米の加工用途向け販売実績 (平成18年産を販売)

(単位:トン)

	販売数量
平成23年産加工用米不足代替販売 (平成24年4～6月)	4,875
平成24年産加工用米不足代替販売 (平成24年10月)	38,968
国産加工原材料用米穀（ふるい下米等） 不足代替販売（平成25年4月）(※)	26,854
計	70,697

(※) 平成25年4月の販売に当たっては、
平成25年産加工用米購入希望数量に、政府備蓄米購入
契約数量以上を上乗せ
することを条件として販売。

令和6年産に向けた水田における作付意向について（令和6年産第1回中間的取組状況（令和6年1月末時点））①

- 農林水産省では産地・生産者が主体的に作付を判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
- 5年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、1月末時点では、増加傾向5県、前年並み30県、減少傾向11県。
- 戦略作物については、加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）、米粉用米、WCS用稲及び麦において増加傾向又は前年並みとしている県が多い一方、飼料用米及び大豆については、前年並み又は減少傾向とする県が多い。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年1月末時点）】下段〔 〕は前年同時期の作付意向

主食用米		戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場 開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵粗 飼料用稲 〕	麦	大豆	
前年より 増加傾向	5県 〔0県〕	17県 〔15県〕	19県 〔18県〕	17県 〔16県〕	3県 〔11県〕	18県 〔20県〕	17県 〔23県〕	5県 〔16県〕	2県 〔6県〕
前年並み	30県 〔35県〕	18県 〔27県〕	17県 〔18県〕	22県 〔24県〕	17県 〔25県〕	23県 〔21県〕	16県 〔14県〕	19県 〔15県〕	10県 〔22県〕
前年より 減少傾向	11県 〔12県〕	8県 〔2県〕	1県 〔3県〕	5県 〔5県〕	25県 〔10県〕	4県 〔4県〕	11県 〔8県〕	20県 〔14県〕	18県 〔5県〕

注1：令和6年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、5年産実績との比較。
2：比較している主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
6：石川県については、令和6年能登半島地震の影響のため、令和6年産の意向は含まれていない。

令和6年産に向けた水田における作付意向について（令和6年産第1回中間的取組状況（令和6年1月末時点））②

都道府県	主食用米		戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲免酢粗飼料用稲)		麦		大豆	
			5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
全国計	124.2万		48,797		9,091		7,587		133,925		53,055		104,526		87,973	
北海道	82,200	↗	6,920	→	1,974	↗	143	→	6,788	↘	1,594	↗	33,869	↘	17,865	↘
青森	33,800	↗	787	↘	321	↗	12	↗	7,930	↘	788	→	561	↘	4,801	→
岩手	42,800	→	1,283	↗	417	→	30	↘	5,739	↘	2,396	↘	3,491	↗	4,196	→
宮城	57,200	→	626	↗	894	↗	103	↗	9,801	↘	2,757	↗	2,186	→	9,525	→
秋田	69,900	→	8,264	→	500	↗	329	↗	4,265	↘	1,235	↗	182	↘	8,701	→
山形	52,400	→	4,516	↘	440	↗	112	→	5,138	→	1,239	↗	73	↗	4,655	↘
福島	53,100	→	448	↗	142	↗	12	↗	11,722	↘	1,079	↗	333	↗	907	↗
茨城	57,800	→	947	↗	762	↗	55	↗	13,886	↘	653	↗	4,037	→	776	→
栃木	47,200	↘	1,513	→	70	↗	1,418	→	15,069	↗	2,177	↗	7,442	↗	419	↗
群馬	12,400	→	1,389	→	0	→	168	→	1,661	→	621	→	2,185	↘	118	→
埼玉	27,500	→	144	↗	52	↗	769	↗	3,605	↘	124	↗	1,877	↗	383	→
千葉	45,800	→	1,672	↗	35	→	135	→	10,154	↘	1,316	↘	440	↘	262	↘
東京	111	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	→	-	-	-	-	-	-	13	→	2	→	4	→	6	→
新潟	100,600	→	7,093	→	1,586	↗	1,784	→	4,032	→	533	↗	189	↗	3,996	→
富山	31,200	→	1,220	↘	342	→	266	↗	2,096	↘	480	→	2,834	→	4,165	↘
石川	20,800	- 注6	481	-	65	-	371	-	1,131	-	127	-	1,198	-	981	-
福井	21,500	↗	322	↗	132	↗	213	↗	1,976	↘	160	→	5,210	↘	76	→
山梨	4,660	↘	62	↗	-	-	29	→	21	↘	18	→	62	→	99	→
長野	29,300	→	733	→	245	↗	24	↗	429	↘	265	↗	2,543	→	670	→
岐阜	19,700	→	741	↗	78	↗	65	↗	3,496	↘	303	→	3,689	↗	359	→
静岡	15,000	→	105	→	1	↗	8	↘	1,011	↘	330	→	244	→	38	↘
愛知	24,700	→	573	↗	44	→	278	↗	2,040	↘	182	↘	5,646	→	70	↘
三重	24,900	→	168	→	54	→	95	→	2,426	→	303	→	7,050	→	188	↘

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向（対前年実績）」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
6：石川県については、令和6年能登半島地震の影響のため、令和6年産の意向は含まれていない。

令和6年産に向けた水田における作付意向について（令和6年産第1回中間的取組状況（令和6年1月末時点））③

都道府県	主食用米		戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
			5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
滋賀	27,000	↗	608	↘	205	↗	58	↗	2,033	↘	310	→	8,222	↗	591	↘
京都	13,200	→	551	→	25	→	10	→	133	→	158	↗	290	↘	266	→
大阪	4,430	↘	0	↘	-	-	5	→	6	↘	4	↗	2	↗	8	↘
兵庫	32,500	→	674	→	185	↗	48	↘	819	→	972	→	1,931	↗	1,658	↘
奈良	8,200	→	19	→	-	-	36	→	50	→	43	→	68	→	22	→
和歌山	5,780	→	-	-	-	-	1	→	3	→	4	↘	4	→	11	↘
鳥取	11,700	→	25	→	33	↗	0	→	821	→	392	→	68	↘	619	→
島根	15,900	↘	252	↘	2	→	7	↘	804	↘	745	↗	281	↗	629	↘
岡山	26,900	↘	295	→	189	→	120	↗	1,824	↘	475	→	1,269	→	1,116	↘
広島	20,500	→	351	→	44	→	96	↗	443	→	708	↗	318	↗	226	↗
山口	16,000	↘	976	↗	86	→	43	→	1,108	↘	410	→	711	↗	816	↘
徳島	9,480	→	20	→	40	→	11	→	1,007	↘	247	→	55	↗	7	↘
香川	10,100	↘	48	↗	28	↗	7	→	195	→	269	↗	1,322	↗	39	↘
愛媛	12,800	→	34	↗	-	-	6	→	344	↘	217	↗	430	↗	313	↗
高知	10,200	→	84	→	-	-	18	→	1,135	→	321	→	5	→	54	→
福岡	32,300	↗	224	↘	12	↗	322	↗	2,475	→	2,068	↗	1,140	↘	7,773	→
佐賀	21,700	→	406	↘	8	→	19	→	829	↘	2,246	→	1,411	↗	6,241	→
長崎	10,000	↘	6	→	10	↘	4	↗	117	→	1,549	→	78	↘	256	↘
熊本	28,900	→	672	→	41	→	309	→	1,646	→	9,167	→	795	→	2,238	↘
大分	18,100	↘	148	↗	2	→	13	↘	1,932	↗	2,758	→	693	→	1,317	↘
宮崎	12,700	↘	1,978	↗	22	→	22	→	887	↗	7,207	→	18	↘	207	↗
鹿児島	15,800	↘	1,389	↗	1	→	12	↗	880	↘	4,081	→	75	→	310	↘
沖縄	544	→	30	↗	-	-	2	→	3	→	22	↗	-	-	-	-

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向（対前年実績）」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
6：石川県については、令和6年能登半島地震の影響のため、令和6年産の意向は含まれていない。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和6年1月）

- 令和5年1月～12月の米の販売数量の対前年比は、小売事業者向けで+2%、中食・外食事業者等向けは+5%となっており、販売数量の計では+3%となっている。また、令和6年1月の対前年同月比は、小売事業者向けで+6%、中食・外食事業者等向けは+3%となっており、販売数量の計では+5%となっている。
- 令和6年1月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差▲31万トンの275万トンとなっており、出荷段階は対前年差▲31万トンの229万トン、販売段階は対前年差±0万トンの46万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月 ～12月計	6年 1月
小売事業者向け	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%	105%	105%	104%	102%	106%
（※令和元年との比較）	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)	(102%)	(104%)	(108%)	(103%)	(110%)
中食・外食事業者等向け	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%	105%	105%	102%	105%	103%
（※令和元年との比較）	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)	(100%)	(100%)	(98%)	(97%)	(96%)
販売数量計	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%	105%	105%	103%	103%	105%
（※令和元年との比較）	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)	(101%)	(102%)	(103%)	(101%)	(103%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000㌧以上の販売事業者（年間取扱数量約150万㌧（令和4年産主食用米等の生産量670万㌧の約2割））である。
注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
注3：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年（4月までは平成31年）の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移（家計調査）】

		5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月 ～12月計
米	購入数量	3.72	4.06	4.25	4.51	4.45	4.23	4.39	4.44	6.06	6.75	4.49	5.29	56.65
	前年同期比	94.2%	98.1%	91.4%	99.3%	101.6%	98.8%	100.9%	102.1%	100.5%	93.2%	97.8%	109.1%	98.7%
パン	前年同期比	96.9%	102.8%	93.5%	99.1%	95.2%	100.2%	93.0%	95.7%	101.1%	100.3%	96.3%	101.6%	98.0%
めん類	前年同期比	98.0%	87.3%	90.7%	93.1%	95.8%	95.2%	94.1%	101.0%	91.5%	91.1%	94.9%	92.3%	93.8%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

		(単位：万玄米トン)											
		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
4 / 5 年	出荷＋販売段階	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	出荷段階	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
	販売段階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
5 / 6 年	出荷＋販売段階	123	105	200	290	304	299	275					
	対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲30	▲31					
	出荷段階	95	78	162	236	250	247	229					
	対前年差	▲21	▲19	▲4	▲26	▲27	▲29	▲31					
	販売段階	27	26	38	54	54	52	46					
	対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0					

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稲うるちのみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
注2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
注3：期間については、5/6年であれば、令和5年7月～6年6月である。

産地別民間在庫の状況（令和6年1月）

（単位：千玄米トン）

	4年 12月 ① (千玄米トン)	5年 1月 ② (千玄米トン)	5年 12月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	6年 1月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
北海道	342.0	324.1	280.6	▲ 61.3	▲ 17.9%	278.9	▲ 45.2	▲ 13.9%
青森	147.1	141.8	144.1	▲ 3.0	▲ 2.0%	133.4	▲ 8.4	▲ 5.9%
岩手	160.9	147.2	135.8	▲ 25.1	▲ 15.6%	126.3	▲ 20.9	▲ 14.2%
宮城	178.9	172.4	168.7	▲ 10.2	▲ 5.7%	159.6	▲ 12.8	▲ 7.4%
秋田	256.1	230.8	229.3	▲ 26.8	▲ 10.5%	206.0	▲ 24.8	▲ 10.8%
山形	196.7	180.8	184.8	▲ 11.9	▲ 6.0%	168.1	▲ 12.7	▲ 7.0%
福島	172.8	160.7	182.7	+ 10.0	+ 5.8%	159.3	▲ 1.4	▲ 0.9%
茨城	133.1	123.7	124.8	▲ 8.4	▲ 6.3%	110.4	▲ 13.3	▲ 10.7%
栃木	166.7	155.8	151.9	▲ 14.8	▲ 8.9%	139.2	▲ 16.6	▲ 10.7%
群馬	27.6	28.6	18.5	▲ 9.2	▲ 33.2%	20.5	▲ 8.0	▲ 28.1%
埼玉	42.1	40.1	34.3	▲ 7.8	▲ 18.5%	31.1	▲ 8.9	▲ 22.3%
千葉	70.4	62.6	64.0	▲ 6.4	▲ 9.1%	56.0	▲ 6.6	▲ 10.6%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	2.5	2.2	2.6	+ 0.0	+ 0.7%	2.3	+ 0.1	+ 4.9%
山梨	5.0	4.7	5.3	+ 0.3	+ 6.0%	5.0	+ 0.3	+ 6.4%
長野	75.8	68.4	75.8	+ 0.0	+ 0.0%	68.7	+ 0.3	+ 0.4%
静岡	20.0	17.0	22.6	+ 2.7	+ 13.3%	17.7	+ 0.7	+ 3.9%
新潟	266.6	242.9	271.5	+ 4.9	+ 1.8%	245.3	+ 2.4	+ 1.0%
富山	95.2	87.6	87.7	▲ 7.5	▲ 7.9%	81.3	▲ 6.3	▲ 7.2%
石川	71.8	66.2	69.5	▲ 2.2	▲ 3.1%	63.2	▲ 2.9	▲ 4.4%
福井	55.1	50.3	46.4	▲ 8.8	▲ 15.9%	41.3	▲ 9.0	▲ 17.8%
岐阜	33.9	31.3	34.2	+ 0.3	+ 0.9%	31.4	+ 0.1	+ 0.2%
愛知	39.1	37.7	34.9	▲ 4.2	▲ 10.7%	31.1	▲ 6.6	▲ 17.5%
三重	38.8	35.3	34.9	▲ 3.9	▲ 10.1%	30.9	▲ 4.4	▲ 12.5%

	4年 12月 ① (千玄米トン)	5年 1月 ② (千玄米トン)	5年 12月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	6年 1月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑥/② (%)
滋賀	59.3	53.9	51.2	▲ 8.1	▲ 13.6%	46.1	▲ 7.8	▲ 14.4%
京都	12.3	11.6	10.4	▲ 1.9	▲ 15.4%	8.9	▲ 2.7	▲ 23.3%
大阪	2.6	2.3	1.9	▲ 0.6	▲ 24.8%	2.3	+ 0.0	▲ 1.5%
兵庫	49.5	40.8	45.2	▲ 4.3	▲ 8.7%	39.0	▲ 1.8	▲ 4.3%
奈良	12.4	11.7	11.3	▲ 1.1	▲ 9.0%	10.2	▲ 1.5	▲ 12.7%
和歌山	2.4	2.6	2.2	▲ 0.2	▲ 7.7%	2.0	▲ 0.6	▲ 24.4%
鳥取	29.9	29.1	25.6	▲ 4.3	▲ 14.3%	22.8	▲ 6.4	▲ 21.9%
島根	31.4	29.8	26.7	▲ 4.7	▲ 14.9%	25.2	▲ 4.7	▲ 15.7%
岡山	43.5	42.6	37.9	▲ 5.5	▲ 12.7%	35.2	▲ 7.4	▲ 17.3%
広島	43.3	40.2	40.5	▲ 2.8	▲ 6.5%	40.2	+ 0.0	+ 0.0%
山口	41.5	38.8	34.7	▲ 6.8	▲ 16.4%	30.9	▲ 7.9	▲ 20.4%
徳島	10.9	9.6	7.6	▲ 3.3	▲ 30.2%	6.3	▲ 3.3	▲ 34.1%
香川	18.9	17.5	16.1	▲ 2.9	▲ 15.2%	14.4	▲ 3.1	▲ 17.7%
愛媛	16.1	15.5	15.7	▲ 0.4	▲ 2.4%	14.3	▲ 1.2	▲ 7.6%
高知	10.4	9.7	8.2	▲ 2.2	▲ 21.1%	7.4	▲ 2.3	▲ 23.3%
福岡	74.0	71.7	67.4	▲ 6.5	▲ 8.8%	65.4	▲ 6.3	▲ 8.8%
佐賀	30.5	31.6	31.4	+ 0.9	+ 2.9%	31.2	▲ 0.3	▲ 1.1%
長崎	10.3	10.0	8.8	▲ 1.5	▲ 14.9%	8.7	▲ 1.3	▲ 12.9%
熊本	50.4	50.7	45.5	▲ 4.8	▲ 9.6%	42.5	▲ 8.2	▲ 16.1%
大分	22.1	20.3	17.8	▲ 4.3	▲ 19.6%	15.7	▲ 4.6	▲ 22.8%
宮崎	15.7	14.6	9.2	▲ 6.5	▲ 41.4%	8.5	▲ 6.1	▲ 41.9%
鹿児島	25.6	24.4	17.5	▲ 8.1	▲ 31.7%	16.0	▲ 8.4	▲ 34.4%
沖縄	0.2	0.2	0.2	▲ 0.1	▲ 26.3%	0.1	▲ 0.1	▲ 45.0%
全国	328万ト	306万ト	299万ト	▲29万ト	▲ 8.8%	275万ト	▲31万ト	▲ 10.1%

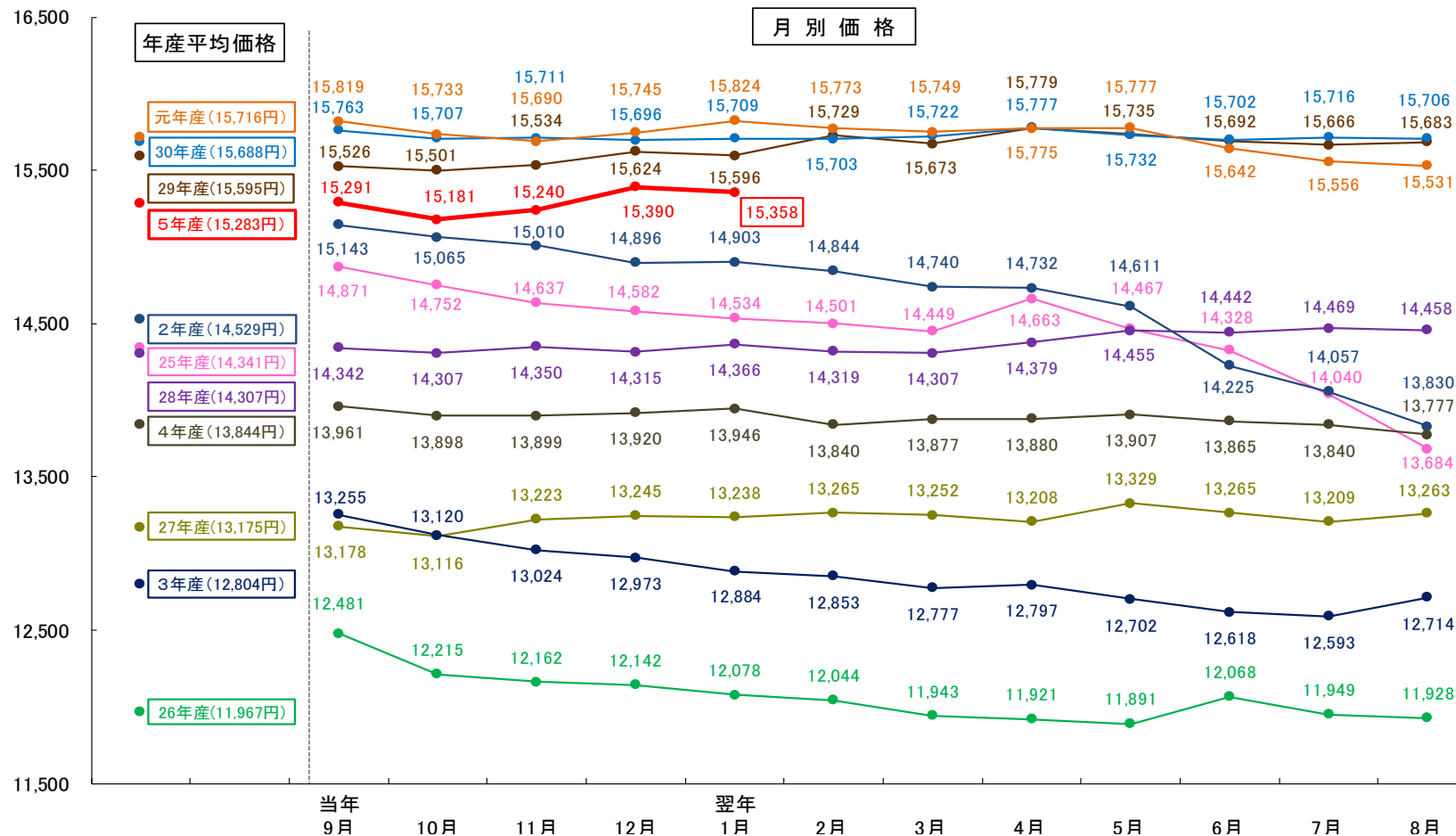
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

○ 令和5年産米の令和6年1月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲32円の15,358円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+1,439円の15,283円/60kgとなったところ。

(円/玄米60kg)



2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（5年産は出回りから令和6年1月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。